

2023 年 4 月 28 日

各 位

株 式 会 社 北 都 銀 行

株式会社 JERA へのトランジション・リンク・ローンの実行について ～当行初となるクライメート・トランジション・ファイナンスの実行～

フィデアグループの株式会社北都銀行（頭取 伊藤 新）および株式会社荘内銀行（本店 山形県鶴岡市、頭取 松田 正彦）は、脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、トランジション・リンク・ローン※（以下、「本ローン」）のシンジケーションに参加することと致しました（シンジケーション総額は 176 億円。詳細は、次頁「シンジケーションの概要をご参照」）。

※・クライメート・トランジション・ファイナンスは、脱炭素社会実現のための長期戦略に則って着実に温暖化ガスを削減する企業の取り組みを支援することを目的とした新しいファイナンス手法。

・本ローンは、脱炭素社会に向けた国際ファイナンス基準に適合（国際資本市場協会（ICMA）が策定した「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」の 4 つの要件を満たすとともに、本ローンは資金使途不特定のため、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）らによって策定された「サステナビリティ・リンク・ローン原則」に適合する「トランジション・リンク・ローン」となります）。

弊行は、持続可能な地域環境づくりに取り組むとともに、地球温暖化や気候変動への対応を積極的に進め、脱炭素社会の実現に向けた支援を続けてまいります。

なお、本ローンの借入人である株式会社 JERA は、国内外事業から排出される CO₂ を将来的にゼロとする「JERA ゼロエミッション 2050」を掲げ、再生可能エネルギーの開発および導入ならびにゼロエミッション火力に向けた水素・アンモニア混焼への投資を積極的に行っています。

また、本件による資金調達のために、「JERA トランジション・ファイナンス・フレームワーク」を策定し、第三者評価機関となる DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社からトランジションファイナンス発行に係る各種基準への適合性について評価を受けています※。

※評価についてはインターネットで次をご参照ください。

「JERA トランジション・ファイナンス・フレームワークの適格性に関する第三者評価」

https://www.jera.co.jp/static/files/corporate/esgfinance/transitionlinkloan/jera_transitionlinkloan_report_202208.pdf

（次ページへ続く）

<シンジケーション概要>

借入人	株式会社 JERA	
アレンジャー	株式会社 SBI 新生銀行	
参加金融機関	当行、株式会社 荘内銀行、株式会社 香川銀行、株式会社 神奈川銀行、株式会社 きらやか銀行、株式会社 大光銀行、株式会社 徳島大正銀行、株式会社 長野銀行、株式会社 りそな銀行	
借入人の トランジション 戦略の概要	【CO ₂ 排出量削減に向けた長期目標】	
	2030 年度	政府が示す 2030 年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて 20% 減の実現
	2035 年度	国内事業からの CO ₂ 排出量について 2013 年度比で 60% 以上の削減を目指す
	2050 年	国内外の当社事業から排出される CO ₂ をゼロとする ゼロエミッションに挑戦する
	【脱炭素に向けたロードマップ】 ・借入人は CO ₂ 排出量の大半を占める国内事業向けにトランジション経路を示した「JERA ゼロエミッション 2050 日本版ロードマップ」を策定し、施策となるゼロエミッション火力（非効率石炭火力停廃止、アンモニア・水素の混焼/専焼）、再生可能エネルギーに関するマイルストーンを示している。	
本ローンの KPI 及び SPT の 概要	CO ₂ 排出量削減に係る 2030 年の中間目標を SPT に設定している。 KPI (指標) JERA グループの国内事業における CO ₂ 排出原単位 (Scope1) SPT (目標) 政府が示す 2030 年度の長期エネルギー需給見通しに基づく 国全体の火力発電からの排出原単位と比べて 20% 減 (SPT 判定年度: 2030 年度)	

以 上

《本件に関する問い合わせ先》
GX 室（担当：佐藤）018-837-1701